

## 雜 錄

**鐵鑛の世界産額及消費高近況** (昭和6年  
3月24日着在ドイツ長井商務書記官報告)

鐵鑛の産額は1927年1億7,000噸なりし處、1928年には1億7,200噸となりたり。1929年佛蘭西の鐵鑛産額は1928年に比し150萬噸の増加なり、之を戦前に比すれば(何れもエルザス・ロートリンゲンを含み)117.5%に當り居れり。而して其増加中エルザス・ロートリンゲンの増産僅少なを以て、主として其他の佛國鐵鑛區に據るものと見るべきなり。佛國の鐵鑛輸出は1928年1,710萬噸なりしも、1929年は1,640萬噸に減少せり。

ルクセンブルグの鐵鑛産額は前年に比し約60萬噸の増加なるも、之を戦前に較ぶれば103.2%に該當し居れり。

白耳義の鐵鑛産額には例年大差を認め得ず。

又英國は1929年に於て前年の産額より200萬噸の増産を示し居るも、之を1913年に比すれば僅に82.6%に當り居るに過ぎず、更に英國の鐵鑛産額を世界總産額中に之を求むれば、1913年は其9%、1928年は6.6%を占め居れり。

獨逸の鐵鑛産額はエルザス・ロートリンゲンを失ひたる結果大なる影響を被り、1913年は世界産額の16%を占め居りたる處、1929年には僅に3.8%を占むるに過ぎず、従て獨逸の鐵鑛輸入は増加し、1928年は1,380萬噸に上り、1929年は1,700萬噸にもなりたるが、1930年には粗鐵生産操短の結果再び1,300萬噸となり。

瑞典は1929年に於て戦前の鐵鑛産額の153.3%に該當する高を産出したるも、前年即ち1928年は罷業に禍せられて僅に62%に該當するものを産出するに過ぎず、而して1929年世界産額中に求むれば6%なり。

尙西班牙の1929年鐵鑛産額は戦前のものに比し34%方減少し居るも、1926年以來増産を辿りつゝあり、而して1929年の産額は世界産額中の3%を占め居れり。

北米合衆國の鐵鑛産額は1928年に於て世界産額中37%を占め、此種産額は世界の最高位にあり。

1928年ソヴェット聯邦の鐵鑛産額は540萬噸にして、1925年に比して倍加せり。

第1表亞細亞及阿弗利加の部に於て、計數の未だ判明せざるものあるが爲完全なるものとは云ひ得ざるなり。

五主要國の國內鐵鑛消費高第2表の如し。而して其消費高(産額、輸出、輸入)と粗鐵生産高とを對照せば、消費せる鐵鑛の鐵含量を知るに尊き資料となる可し、以上對照に依れば北米合衆國は1929年に於て1噸の粗鐵を得る爲には1.76噸の鐵鑛を要し、獨逸は1.73噸を、英國は2.49噸を佛國は2.83噸を、白耳義ルクセンブルグは2.99噸を要したる次第なり。1913年のものと比較せば獨逸及北米合衆國は消費鑛の鐵量は増加せり、之に反し佛國は1913年は2.95噸の鑛より1噸の粗鐵

第 1 表 各國鐵鑛產額高

(單位千噸)

國別 \ 年別	1913	1925	1926	1927	1928	1929
歐洲	108,073	77,203	75,418	95,760	96,559	—
獨逸	{(A) 23,608 (B) 7,309	5,923	4,793	6,626	6,475	6,374
エルザス・ロートリンゲン	(2) 21,134	(3) 15,239	(3) 17,080	(3) 19,211	(3) 20,404	(3) 21,369
東上 部 シ レ ジ ヤ	(2) 105	(4) 19	(4) 4	(4) 6	(4) 17	(4) 12
ル ク セ シ ン プ ル グ	7,333	6,678	7,756	7,266	7,026	7,571
白 耳 義	151	166	128	164	154	—
佛 蘭 西	{(A) 21,918 (B) 43,052	35,598	39,318	45,426	49,008	50,596
希 臘 利	314	88	127	124	167	—
英 吉 太 利 威	16,253	10,309	4,160	11,386	11,443	13,426
伊 太 利 威	603	513	523	521	641	872
諾 威 利	545	425	213	479	663	746
埃 地 利	{(A) 3,039 (B) 2,031	1,030	1,094	1,599	1,928	1,866
波 蘭	(B) 493	214	317	546	737	659
ボ ル ト ガ ル	49	2	2	8	14	—
ル マ ニ ア	{(A) 325 (B) 465	107	103	97	84	89
ソ ヴ ィ エ ッ ト 聯 邦	{(A) 9,530 (B) 10,300	2,083	3,317	4,775	5,357	—
瑞 典 牙	7,479	8,170	8,466	9,661	4,661	11,468
西 班 牙	9,862	4,457	3,182	4,960	5,771	6,547
ユ ー ゴ ス ラ ヴ ィ ア	(B) 229	139	367	336	439	451
チ エ コ ス ロ ヴ ィ ア	(B) 1,800	1,230	1,420	1,591	1,779	2,177
ハ ン ガ リ ー	{(A) 2,059 (B) 395	71	132	195	203	258
北 亞 米 利 加	64,708	64,053	69,585	64,088	64,787	65,739
加 奈 利 加 陀	279	4	0	2	2	2
北 米 合 衆 國	1,457	1,150	880	1,357	1,573	1,541
智 利 馬 利 加	62,972	62,899	68,705	62,729	63,192	74,196
阿 弗 利 加	1,607	567	587	422	391	652
ア ー ジ ン タ イ ン	14	1,234	1,476	1,516	1,550	1,800
南 米 利 加	1,967	3,391	3,284	3,721	4,022	—
チ ー レ ン ト	2,349	1,781	1,630	2,030	1,985	2,165
南 米 利 加	20	87	114	78	51	—
南 米 利 加	—	800	910	952	(5) 1,057	—
南 米 利 加	—	—	47	78	21	39
亞 細 亞	598	723	583	583	909	977
中 華 民 國 (6)	1,112	3,067	3,296	3,592	4,324	—
英 領 印 度	440	822	525	503	925	—
日 本	377	1,569	1,686	1,876	2,039	2,468
滿 洲 洲	153	79	130	159	172	—
濠 洲	142	376	388	423	443	—
總 計	—	221	567	631	695	—
總 計	176	751	753	899	686	867
總 計	177,659	150,266	154,399	169,998	172,300	—

但し(A)戦前領地、(B)戦後領地。(1)現在迄發表の分、(2)獨逸の分に計算、(3)佛國の分に計算、(4)波蘭の分に計算、(5)輸出高、(6)滿洲の分を含む。

第 2 表 各國國內鐵鑛消費高

(單位千噸)

國別 \ 年別	1913	1925	1926	1927	1928	1929
獨逸	35,941	5,923	4,793	6,626	6,475	6,374
生 輸 出	2,613	202	170	167	179	116
殘 餘 高	33,328	5,721	4,623	6,459	6,296	6,258
輸 入 高	14,024	2,540	9,553	17,409	13,794	16,953
國 內 消 費 高	47,352	17,261	14,176	23,868	20,090	23,211
粗 鐵 生 產 高	16,761	10,177	9,644	13,103	11,804	13,401
粗鐵1噸生産に要する鐵鑛量	2.82	1.70	1.47	1.82	1.70	1.73
白耳義、ルクセンブルグ(1)	151	6,844	7,884	7,430	7,181	(2) 7,731

輸 殘 國	出 高	725	1,794	1,432	903	900	818
鐵	入	—	5,050	6,452	6,527	6,281	6,913
粗	高	7,085	9,050	10,847	12,678	13,727	14,057
鐵	入	6,511	14,100	17,299	19,205	20,003	20,970
1	費	2,485	4,906	5,927	6,442	6,627	7,002
噸	生	2'62	2'87	2'92	2'98	3'02	2'99
佛	產						
生	西 (3)						
輸	高	21,918	35,598	39,318	45,426	49,008	50,596
殘	出	10,067	9,227	11,234	14,665	17,054	16,389
輸	高	11,851	26,371	28,084	30,761	31,954	34,207
國	入	1,410	1,242	1,367	1,047	989	1,141
粗	高	13,261	27,613	29,451	31,808	32,943	35,347
鐵	入	5,122	9,944	11,056	11,044	11,917	12,469
1	費	2'55	2'78	2'66	2'81	2'76	2'83
噸	生						
英	產						
生	利						
輸	高	16,253	10,309	4,160	11,386	11,443	13,426
殘	出	5	3	8	7	16	7
輸	高	16,248	10,306	4,152	11,379	11,427	13,419
國	入	7,561	4,452	2,122	5,247	4,511	5,778
粗	費	23,809	14,758	6,274	16,626	15,938	19,197
鐵	高	10,424	6,362	2,498	7,410	6,716	7,701
1	入	2'28	2'32	2'51	2'24	2'37	2'49
噸	生						
北	產						
生	高	62,972	62,899	68,705	62,729	63,192	74,196
輸	出	1,241	641	836	913	1,303	1,325
殘	高	61,731	62,258	67,822	61,816	61,889	72,871
輸	入	2,232	2,226	2,596	2,663	2,492	3,190
國	費	64,013	64,484	70,418	64,479	64,381	76,061
粗	高	31,462	37,288	40,003	37,151	38,766	43,296
鐵	入	2'03	1'73	1'76	1'74	1'66	1'76
1	生						
噸	產						

註 (1) 1913 年ルクセンブルグを除く、(2)概算、(3)1925 年以降ザール地方を除く。

を得たるが、1929 年 2.83 噸の鑛石より 1 噸の粗鐵を得るに至れり。(海外經濟事情 4.20)

**英國鐵力市況** (昭和 6 年 4 月 28 日着在ロンドン松山商務參事官報告)

英國サウス・ウエールズの鐵力業は近年甚しく沈滞不振を極めつゝあるが、其主たる原因は従前同地方よりの輸入に俟ちつゝありし獨、佛、伊等の諸國に於ける斯業が發達して既に自給自足の域を超え、更に進んで海外輸出を企つるに至れるが爲にして、夫等新進諸國の製品は盛に英國品の地盤に喰込みつゝあり。サウス・ウエールズに於て採算の餘地なき程度の安値を提供し居れるを以て英國品は殆ど其市場防護不可能の窮地に陥りつゝあり。

現今世界の主なる鐵力製造國に於ける其 1 箇年生産の實況を概見するに、米國の 3,600 萬函を最

高とし、英國 1,700 萬函 獨逸 400 萬函、佛國 200 萬函、伊國 125 萬函なるが、英國を除くの外其生産品は主として國內消費に充てられ、最近何れも其輸出促進に努力しつゝあるも、之を國內消費に比較すれば尙甚しく大なりとせず、而るに英國は夫等諸國と全く事情を異し、其生産高の 75% は海外輸出を目的としつゝあるを以て、英國に於ては夫等海外市場に於ける新競争者の出現は他生産諸國に比し一層重大なる打撃の因となりつゝあるのみならず、既に競争市場に進出せる夫等新進生産國が經濟界景氣の立直りと共に、今後益々其生産を擴大するに至るべきは必然豫期し得る所にして、サウス・ウエールズ鐵力業は將來一層難局に立たざるべからざるの情況に在り。

抑もサウス・ウエールズ鐵力業は同地方鐵鋼業と密接なる聯絡を有し、勞働方面に關しても組合

側と協同して聯合委員會を組織し、賃銀其他労働條件を研究協議すると共に各工場に於ける生産及作業を需要に応じて調節しつゝあり、其輸出に關しては曩に米國と協定を遂げ相互の割當を定め、無益の競争を避くると共に當業自體に於ても販賣機關としてサウス・ウエールス・チンプレート・コーポレーションなるものを組織し、同業者の約55%は之に加盟しつゝあり、其參加せざるものにては夫々適當の代理店又は輸出商を經由販賣の方法を執りつゝあるに拘らず、斯業は曩に述べたるが如く近年甚しき不況に陥り、其生産額の減少著しきものあり、1929年の生産額1,700萬函は1930年に及びて1,550萬函に減退し、現在作業中の情勢より推算すれば本年度の産額は1,000萬函内外に下るべしと豫想せられつゝあり、斯の如く昨年以來本品生産額の激減を來せる所以のものは、同年7月以來海外生産國の競争顯著となれるが爲にして、市場價格も外國品と競争の結果1函18志より15志3片に引下られたるも尙且外國品に拮抗し得ざる現状に在り。

戦前に於ては生産費低廉なりしが爲市價も亦隨て低廉にて14志4片引の平均値段なりしが、最近競争の結果は殆ど此戦前値段に近接する迄の引下を餘儀なくせるも、而も外國品は夫以上の廉價を提供することを得るの地位に在るを以て、外國當業者は益々英國品と對抗、競争の熱度を昂めつゝあり、さればサウス・ウエールス當業者にして現に保有する市場を維持し、將來の發展を圖らんとせば其生産費を現在以下に低廉ならしむることに努むるの必要あり、將來原料生産費益々昂騰の情勢に在る際此點一層考究を要すべしとは當業者等の意見なり。

因に同地方に於ける流説に依れば當業現今の不況よりコーポレーション加盟會社にしてプールより脱退を申出たるもの相當多數に上りつゝあり、以上計畫も結局實行休止の外なかるべしとのことなるが、若し事實なりとせば早晚價格切下の競争は一層激烈となるべし。(海外經濟事情4,20)

**メキシコ國石油産出近況** (昭和6年4月8日着在メキシコ柳澤臨時代理公使報告)

メキシコ國商工大臣は今回當地諸新聞に對し、メキシコ國石油産出の近況に關する大要次の如き聲明書を與へたり。時節柄相當興味ある様思惟せらる、即ち次の如し。

メキシコ國は一般的に世界を風靡しつゝある經濟の恐慌の影響を受け、採油業の發展上打撃を蒙むるに至れるも、之素より獨りメキシコ國のみにあらずして、世界の主要産國は孰れも需給關係の調節を計らんが爲、生産又は鑿井の制限をなす等極端なる手段を執り、殊に北米は大規模に此手段を講じ其結果として1930年に於ては16,790,082 m<sup>3</sup>に減少し、尙テキサス並オクラホマ及カリフォルニア州の油田は特に豊富なる石油資源の保留に努めつゝあり。ベネスエラ國又小規模ながら同様の策を施したり、従てメキシコ國の採油業が前年と同様引續き不振の域を脱し能はざるは怪むに足らず、前年に於ける産額は7,104,591 m<sup>3</sup>、價額92,025,411ペソなりしもの、1930年に於て6,284,563 m<sup>3</sup>、80,932,254ペソ減退せり。尤も石油及其抽出物輸出高の減少は殆ど云ふに足らず、即ち前年の4,298,827 m<sup>3</sup>に對し、1930年に於て4,290,035 m<sup>3</sup>を維持す、メキシコ國は今や世界産油國中第5又は第6位に落伍したるに拘らず、其産出及富源より見尙重要なる位置を占む、假令

保有の富源により世界の主要産國に列し得べしとの豫想を別とするも、現にコロンビア、ペルー、トリニダツド、アルゼンチン、インド、ポーランド其他 15 箇國の上位にあり、之何故に幾多の企業者が我國に於て石油の採掘及調査權を獲得せんが爲熱中しつゝあるかを如實に説明するものと云ふべく、今日迄許可を與へたる鑛區は 12,491,661 ヘクタレアにして、申請鑛區は實に 72,000,000 ヘクタレアに達す。

前記の如く採油狀況は甚だ制限的なるに拘らず最重要なる油田探査區域は却て擴大し、殊にコウウイラ竝ヌエボ・レオン及タマウリパス等の北部諸州、タバスコ州及テワンテペツク地峽地方では異常の活氣を呈し居れり、現にモンテレイ市に新に當省石油部の出張所を設け、北部地方の爲諸般の取扱に利便を與ふることとせり。又テワンテペツク地峽地方にありては、有名なる油田トナラの南方 25km の地に豊富なる鑛脈發見せられ、其他有望と確信せらるゝ地點數箇所あり云々。

尙ロスアシゼルス駐在メキシコ國商務官がパン・パンフイク・プログレス誌 2 月號に、次の統計を發表せり。(本年 1 月 1 日より 10 月 10 日迄新に開鑿せられたる油井は 66 坑にして、内パソ・レアル(ペラクルース州ツспан川の南)及トナラ(テワンテペツク地峽地方の東北部)は最有望なる

油 田	坑 數	噴出當時日産		平均日産	
		m <sup>3</sup>	(バレル)	m <sup>3</sup>	(バレル)
エバノ	8	1,183	7,441	148	931
カリラオ	10	284	1,786	28	176
パヌコ	5	601	3,780	120	755
タンゲイボ	1	1	6	1	6
チャパボテ	1	—	—	—	—

パソ・レアル	14	4,164	23,192	297	1,868
サン・イシドロ	3	430	2,705	143	899
メカテペツク	1	32	201	32	201
ミアウアバン	1	—	—	—	—
ボサ・リカラ	1	5	31	5	31
トナラ	21	2,459	15,467	117	736
計	66	9,159	57,609	891	5,603

油田とす。

英國硫酸安母尼亞概況 1929—30年(昭和 6 年 3 月 11 日附在ロンドン松山商務參事官報告)

英國硫酸安母尼亞協會發表に係る、1929—30年(自 1929 年 7 月 1 日至 1930 年 6 月 30 日)硫酸の概況次の如し。

1929—30 年(本年)の世界窒素生産能力の總額は約 240 萬噸と推算せらるゝが、本年實際生産額は 2,178,400 噸、前年に比し 6 萬 5,400 噸約 3% の増加にして、本年中チリー硝石の産額は 2 萬 6,000 噸の減少を示したるも、其他の諸國に於ける産額は 9 萬 1,400 噸増加したるを以て、結局前記の如き増産を見るに至れり。

消費額も亦前年に比し 86 萬 6,400 噸 4.5% の増加にして、前々年に比すれば 14%、其前年に比すれば 25% の増加なり。

本年度及前 5 箇年の世界窒素生産消費の實勢次の如し。

純粹窒素生産物世界生産消費額 (單位噸)

種 目	1929 -30年	1928 -29年	1927 -28年	1926 -27年	1925 -26年	1924 -25年
生 産						
副産硫安	380	376	368	328.2	296.7	278.3
合成硫安	455	485	367	300	289.2	255
(イ) サイアナム	263.6	210	204	180	150	115
イソド	130.5	136	105	81	30	25
(ロ) 硝酸石灰	423	365	236	133.4	120.7	66.1
其他の合成窒素	62.3	51	54	42.3	47.7	47.4
(ハ) 其他の副産窒素	464	490	390	199.6	399.4	367.5
チリー硝石	464	490	390	199.6	399.4	367.5
合 計	2,178.4	2,113.1	1,724	1,264.5	1,333.7	1,154.3

本年は世界一般に農家の經濟状態が前年以上に益々不良に傾けるが爲却て收穫増加、生産費低減

種目	1929 -30年	1928 -29年	1927 -28年	1926 -27年	1925 -26年	1924 -25年
消費						
人造窒素	1,596.33	1,452.63	1,249.605	1,037.5	934.2	786.8
チリー硝石	362.39	419.45	392.722	275.2	324.2	363
合計	1,958.72	1,872.08	1,642.327	1,312.7	1,258.5	1,149.8
農業用高	1,721	1,684	1,490	1,200	1,117	1,020

(備考) (イ)は日本製造高を除算し、其高は合成硫安中に合算せり。  
(ロ)及(ハ)には工業用液體安母尼亞を含む。

の目的より窒素消費の増加を刺戟せる傾向なきに非ざりしも、他面農業界不況の大勢は農家の購買力を減殺せるが爲、結局窒素消費額も前年以上の増進率を示すに至らず。チリー硝石の如きは13.5%の減退を來たし、人造窒素も亦漸く10.5%の増率を維持し得たるに過ぎず、尤も米國、スペイン、ポルトガル中華民國及日本では其消費増進の形勢顯著なるものありしも、全體の上より見て農家の經濟狀態逼迫し、農作物の價格も著しく下落せる現状より推せば、次年の消費額に急激なる増進を期待するは殆ど不可能なるべしと思考せらる。

窒素消費増進の形勢が前記の如く遅々たるに反し、本年の生産方面の進歩は却て目覺敷ものあり幾多合成窒素製造工場の新設を見たる結果、自然市場を壓迫する傾向を來し、安値競争の弊漸く擡

頭するの形勢に迫りたるが、幸にして本年末に至り合成窒素生産國たるベルギー、チエコスロバキア、フランス、ドイツ、英國、オランダ、イタリー、ノルウエー及ポーランドの當業者間に1箇年を期限とする協定

成立し、次でチリー國の政府及當業者に對しても協定を取結ぶに至れるを以て、同志打競争の慘禍を回避することを得たり。

本年度の純粹窒素の世界消費額(單位噸)の地方的類別示表の如し。因に本表の數字は推算に依るものにして、其内日本に於けるカルシウム・サイアナマイドは硫安に合算しあり

尚前記數量に對比する爲前年の消費額を示せば次の如し。

1928—29 年度純粹窒素消費分布(單位噸)

國名	硫安	チリー硝石	カルシウム サイアナマイド及アモ ホス	其他の合 成窒素	工業用ア ムモニア
(1)	346,108	167,780	160,240	263,610	82,430
(2)	77,170	61,430	13,460	19,920	3,200
(3)	195,980	16,860	19,380	7,000	5,680
(4)	3,000	3,830	—	440	270
(5)	10,000	167,920	24,400	58,970	65,300
(6)	4,730	1,630	—	270	400
計	727,660	419,450	217,480	350,210	157,280

1929—30 年純粹窒素消費分布 (單位噸)

國名	硫安	チリー硝石	カルシウム サイアナマイド及アモ ホス	其他の合 成窒素	工業用ア ムモニア
(1) スカンデナヴィア、露國バルチック沿岸諸國、ドイツ英國オランダ、ベルギー、フランス、スイス オーストリー、チエコスロバキア、ハンガリー ルーマニア、ユーゴスラビア、ブルガリア	353,130	155,950	160,180	281,470	90,000
(2) スペイン、ポルトガル、アゾレスマテイラ、イタ リー及シシリー、エジプト其他地中海沿岸諸國	87,090	65,070	17,040	27,920	3,000
(3) インド帝國、セイロン、ヒリツピン、マレー、蘭領 東インド、シヤム、ボルネオ、日本、朝鮮、中華民國	212,480	8,550	30,050	6,900	4,400
(4) アフリカ(エジプトを除く)及沿岸諸島	3,460	5,540	100	210	270
(5) 米國、カナダ、中南米、西インド諸島、キューバ、 プアトリーコ、ハワイ	118,600	125,190	36,700	58,190	96,300
(6) オースタラリア	7,440	2,090	—	300	1,100
計	782,200	362,390	244,070	374,990	195,070

次に英國内地に於ける硫安の生産輸出及消費状況を示せば次の通りなるが、本表中アルカリ検査官報告に係る硫安は安母尼亞含有量 25% (N=20.6%) として計算せられたるものにて、1921年迄はアイルランド生産額を含み、且其後 1929 年に至る迄は其推定額を合算せり。尙アイルランド自由國の輸出額は全然なきを以て、本表輸出額の數字は各年を通じ英國(グレート・ブリテン及北アイルランド)よりの輸出額のみを示せるものと知るべし(單位噸—2,240 封度)

英國硫安生産消費及輸出額各年比較

(單位噸 2,240 封度)

年度	硫安として生産せられたる安母尼亞總生産高(アルカリ検査官報告)	硫生産高	税關調査硫安輸出高(英海峽諸島及アイルランド自由國を除く)	國內農業用硫安消費高	チリー硝石消費高
1913	423,966	×367,000	323,444	△40,000	80,000
1914	414,884	×356,000	305,561	△57,000	60,000
1915	417,742	×330,000	264,610	△95,000	20,000
1916	425,029	315,500	183,272	144,600	5,000
1917	449,445	283,500	31,741	234,000	10,000
1918	423,900	321,500	37,626	260,000	25,000
1919	370,084	361,360	116,134	233,500	40,000
1920	409,875	315,630	134,378	166,920	47,500
1921	260,851	229,390	116,377	136,000	56,000
1922	364,672	344,824	186,045	140,200	57,000
1923	441,187	399,204	253,274	142,400	50,000
1924	470,064	411,650	261,131	153,200	40,000
1925	445,918	377,497	223,210	163,650	35,000
1926	336,456	231,913	137,319	169,340	33,000
1927	491,009	472,029	302,596	167,720	37,000
1928	644,759	645,042	423,437	186,710	49,500
1929	943,068	865,878	634,405	183,516	49,500

(備考) (1) 本表中アルカリ検査官報告安母尼亞生産高は曆年に依れるも、其他は凡べて肥料年度(自7月1日至6月30日)とす。但し 1913 年度より 1927 年迄は自6月1日至5月31日)とす。(2) 硫安生産高中の ×印及國內農業用硫安消費高中の △印は推定額を示す。

以上の内チリー硝石本年の英國内消費額は前年の 73,000 噸に對して 57,500 噸と推算せらる、此減少は主として工業方面の用途減退に因るものと認めらるゝが、農業用硫安の内地消費も亦前年に比し 3,200 噸 1.75% の減退を示し、全體として

の英國内地硫安消費總額は前年の 72,740 噸に對し、窒素量約 68,010 噸にて、此内工業用として消費せられたる額は前年の 23,300 噸に對し 19,500 噸の推算なり。

更に輸出入の方面を見るに本年中英國に輸入せられたる硫安の數量は 3,500 噸にして、之に對する輸出は 634,405 噸、其仕向國別並前 2 箇年との比較次の如し。

英國硫安輸出國別比較

(單位噸—2,240 封度)

仕向國別	1929-30 年	1923-29 年	1927-28 年
スカンジナビア	—	2	—
ソヴェト聯邦	20,235	494	—
ベルギー	—	461	—
フランス	43	302	—
スイス	2	—	—
英吉利海峽諸島	1,304	1,123	1,106
スベトイナル	194,205	83,564	66,289
ポルトガル	7,711	4,954	3,100
カナリー島	19,464	15,878	15,661
マデイラ	1,204	621	482
イタリアー及シチリア	4,878	5,625	3,982
ギリシア	—	—	250
其他の歐洲諸國	—	39	—
エジプト	1,756	2,125	577
スーダン	2,641	1,184	1,550
パレスタイン	929	615	167
其他の近東諸國	335	21	10
アルゼリア、モロッコ、チュニス	—	2	—
ジャワ	29,550	11,699	29,610
其他の蘭領東インド	972	1,012	314
フィリッピン	—	—	—
マレー	2,625	1,683	953
日本	158,971	146,087	100,915
中華民國	18,278	10,023	16,312
ホンコン	91,610	83,304	33,304
米國	—	—	315
カナダ及ニュー・ファンドランド	10	245	32
英領西インド	3,745	3,504	4,445
中米	—	—	2
英領ギアナ	5,830	6,580	6,271
南米	1,167	1,105	344
オースタラリア	9,960	1,067	50
ニュー・ジランド	10,123	4,153	40
フィジー島	1,919	1,514	1
セイロル	13,431	12,676	8,833
インド及ビルマ	23,881	18,132	2,453
西アフリカ	1,986	1,777	1,694
東アフリカ	157	127	197
モリシア	6,688	7,835	4,242
西アフリカ	2	22	—
其他	—	—	47
計年計	635,709	429,565	303,702
曆年計	565,856	377,635	251,640

(備考) 曆年計の數字は各其年度初頭の屬する曆年を示す、例へば 1929-30 年欄のものは 1929 年の分を示すものとす。

英國硫酸安母尼亞協會は從來斯業發展の方法として附屬會社ナイトラム會社を設け硫安の普及に努め、其研究指導に盡しつゝありしが、同附屬會社は 1929 年末解散し、同社の事業は 1930 年 1 月よりイムペリアル・ケミカル・インダストリース會社之を繼承し、Sir Frederick Keeble, F. R. S. 其主任となり、Peel, Page, Carroll 及 Cheveley の諸氏補佐となり、引續き國內及國外に於ける研究宣傳を續行せり、其事業の概況を述べれば次の如し。

Jealott's Hill (Bracknell, Berkshire) に於ける研究及試験場は、既に夫々其擔當技師の任命を了し、作業は過去 2 箇年間顯著なる進捗を示し幾多有益なる報告を發表したり。

果樹及野菜用肥料に關する研究試験の目的を以て 1 名の園藝技師を任命し、同技師は既に其研究試験を開始せり。

研究及試験の主力を Jealott's Hill 試験場に集中する爲、英國内各地に散在せる試験場は之を減少せるも、農業上に於ける肥料の經濟的用法及其效果に關する調査は依然續行せり。

英國内に於ける宣傳部は従前より 20 名の指導技師 (Adviser) を以て組織し居れるが、1930 年より其統制はイングランド及ウェールズ方面はイムペリアル・ケミカル・インダストリース會社の地方販賣部に移し、又スコットランド方面は Scottish Agricultural Industries, Ltd., に之を委任したり、其結果として能率著しく向上せると共に、販賣部と指導部との聯絡は一層密接し來れるのみならず、指導技師は Jealott's Hill 試験場より定期に其報告を受領しつゝあり、且以上試験場の當局者とロンドン中央部の當局者とは屢々會合協議

し相互に意志の疏通をなし居るを以て其聯絡は能く保持せられつゝあり。

本年農作物の價格非常に下落し資金缺乏せる爲一般農家特に東部地方に於ては其宣傳寧ろ困難なるものありしが、唯甜菜栽培のみは補助金の關係もあり、同栽培者及製糖業者に對する宣傳は相當有效なる成果を見たり。

牧草に對する窒素使用は漸次増進し、英國内各地に於て之を常用するもの益々増加せるが、之に關しては宣傳用冊子 "Early bite" 與つて力多し

次に本年に於ける宣傳の實績を述べれば新農家訪問 3,000 箇所、講演 80 回 (聴衆 3,500 人) 活動映寫 160 回 (觀覽者 10,000 人以上)、其他各地農場に於ける實演には 4,000 人の農業者参加し、宣傳自動車隊が農家及農作物商人と接觸せるもの實に 5,000 人の多きに達せり。

以上の外新聞利用の宣傳は主として春季に於て其全力を傾注したるが、本年中夫等關係記事の倫敦及地方新聞に掲載せられたるもの 82 種に達せり

肥料展覽會も各地の展覽會を機として開催せられ、ノース・イースト・コースト博覽會、英國産業博覽會其他ローヤル、ハイランド、ベルファストスミスフィールド及デーリー等の各展覽會には何れも出陳したり、其他にも 8 箇處に於て店頭陳列を試みたるが、夫が爲芝生及園藝用肥料に關する冊子の要望を申出たるもの著しく増加したり。

"Farm Notes" も同年中 2 回版を重ね 15 萬部を印刷せるが、同誌の海外需要も亦非常なる増加を見るに至れり。

其他 Jealott's Hills 試験場の參觀者は英帝國を始め各國の政府當局栽培者、農業家を合せ 589 名の多きに及び、一方夫等海外諸國へも宣傳部員を



派遣して宣傳及調査に従事せしめたるが、其派遣したる國々はカナリー島、トルコ、シリア、エジプト、パレスティン、サイプラス、スペイン、ポルトガル、南アフリカ聯邦及ローデシア等なり。

**錫生産及輸出制限國際協定成立** (昭和6年3月25日着在ロンドン松山商務參事官報告) 最近に於ける錫市場の不況は1929年に溯り之を觀察することを得べし。即ち同年の9月末迄は5月及6月に現はれたる軟弱氣配を除けば、大體に於て標準物噸200磅以上の市價を維持することを得たる次第なるが、同年10月に入り市場不振の傾向顯著となり、上旬の200磅5志を最高に、中旬190磅を割り、翌11月に入りては170磅臺出現低落止まる所なきが如き有様にて市場恢復の機運を近く期待するを得ざる狀勢に顧み、同年9月設立を見たる英國錫生産者協會 (關係會社所在國は英國、馬來、ナイジーリア、暹羅、ビルマ、濠洲等に亘り英國系會社生産額の約90%を代表) は、生産制限案を市價維持策として提唱するに至れり。同協會が最初に協會員に勸説したる生産制限案は (1) 1930年中週末休業の實行、(2) 毎年最初の3箇月間に月1週間の休業に依り錫の滞貨漸増を防ぐと同時に需給關係を調節し、以て市價の低落を阻止せんとするにありて、以上は1930年1月より實施を見たるも、後間もなく全生産高に20%の限産を行ふ案を以て之に代ふに至れり。

該改定案は1930年4月16日協會の總會に於て承認を経たるが、當時の決議に従へば限産案の要點は、(1) 1929年中生産全能力に於て經營せられたる會社は、同年の生産の80%に、1930年の生産を制限すること。(2) 1929年中既に1部限産を行へる會社は、1930年の豫定生産額の80%

以上を生産せざること。と云ふにありたり。斯の如き経過にて1929年の生産額に20%の限産を行ふを主眼とする協會制限案は實施の運びとなりたるも、市場相場は1929年末より翌年6月中旬に至る約7箇月の間に170磅臺より135磅に釣瓶落の低落を現出し、錫生産業者協會が折角の苦心に成れる生産制限案も其効果を擧ぐることを得ずして、早くも該案の失敗を云々せられる、事態に陥りたり。

錫生産業者協會は斯の如き市場の情勢を看取し茲に第3次の制限案の考究に着手したが、此第3案の基礎は前記制限案を以ては未だ救濟策としては不充分なりとし、20%限産主義を1年を通じての生産額に延用せず、其代りに一定の短期間毎に區切て、其實施を集中せんとする主義の採用にありたり、斯くして1930年6月26日錫生産業者協會は、錫の市價が法外に騰貴するを防ぐとともに、採算値以下に市價の低落するを阻止し、而も消費者に對し、常に潤澤なる供給を確保する爲、關係生産業者に對し7月以後の3箇月間中2箇月間の生産中止を勸説せり。と聲明し、同時に1年を3月間毎に區切て、限産20%主義を集中する方針も確認を見たが、斯くして7月20日迄に英領地及暹羅國に於ける錫生産業者にして、該案の實行に賛同加入するもの94會社を算へたり、尤も是等參加會社の中には市場不振の故に既に年に3箇月以上の休業を爲し居るものありしなり。當時世界の錫供給狀態を前年同期と對照次の如し。

	1929年 自7月 至9月	1930年 自7月 至9月	同年自7月 至9月限産高
馬來聯邦輸出	16,743	13,708	3,035
聯邦外馬來輸出	586	402	184
海峽殖民地輸入	8,193	7,302	891

英國内生産	748	662	86
ナイジェーリア着荷	2,213	1,742	471
ボリビア送荷	11,090	8,418	2,672
蘭領東印度輸出	3,138	2,641	497
濠洲輸出	140	5	135
小計	42,851	34,880	7,971
中華民國輸出	870	856	14
計	43,721	35,736	7,935
以上の外の國より英國へ輸入	1,175	1,260(増)	85
合計	44,896	36,996	7,900

尙各國の年産量下の如し。(單位噸)

	1927年	1923年	1929年	1930年
蘭領印度	33,934	34,943	32,400(C)	31,000
(a)ボリビア(55%)	33,867	40,305	43,032	37,051
(a)馬來聯邦	52,179	61,935	67,040	62,063
(a)聯邦外馬來	1,998	2,435	2,323	1,907
(b)暹羅及ビルマ	9,038	9,188	10,500	12,525
(a)ナイジェーリア	7,648	9,132	10,703(C)	8,750
濠洲	3,144	2,890	2,239(C)	2,000
南阿	1,160	1,193	1,202(C)	900
コーンウォール	2,593	2,761	3,271(C)	2,500
中華民國	6,220	7,032	6,778(C)	7,000
其他諸國	3,600	3,700	4,000(C)	4,000
合計(世界)	155,381	175,514	183,491	169,696

(註) 上の中(a)は輸出量、(b)は海峽殖民地への輸入量  
(c)は豫測量。

然るに錫市場は以上に述べたるが如き生産者側任意の限産政策実施にも拘らず落潮止まず、1930年12月中旬には104磅10志の新安値を唱ふるの有様となりたるを以て、協會當局者は英國側生産業者を中心とする任意的限産計畫のみに依頼しては市場恢復の期待出來ず、此上は一步を進めて他の主要製産國同業會社をも加ふる廣汎大規模の協定を作り、且限産計畫を徹底的ならしむる爲には各國政府の協力を得て之を強制的のものたらしむる以外に策なしとの見地より夫々關係方面との交渉を進め遂に馬來聯邦、ナイジェーリア、ボリビア、蘭領印度等の諸國の政府及當業會社間に協定纏まり、國際限産案なるものゝ内容公表せらるゝに至れり、此形勢に市場は前記新安値を底値とし漸次上向き年末には118磅に恢復することを得たり。1930年中の倫敦市場相場の推移下の如し。

1930年倫敦錫市場現物相場 (標準物噸當)

		磅 志			
1月	初旬	180.6	7月	初旬	135.12
	中旬	175.0		中旬	134.12
	月末	176.12		月末	134.15
2月	初旬	176.15	8月	初旬	135.12
	中旬	172.15		中旬	134.5
	月末	168.2		月末	134.12
3月	初旬	166.15	9月	初旬	133.12
	中旬	161.5		中旬	134.7
	月末	170.10		月末	125.10
4月	初旬	165.5	10月	初旬	125.5
	中旬	164.12		中旬	113.12
	月末	153.5		月末	118.5
5月	初旬	150.7	11月	初旬	114.0
	中旬	147.15		中旬	115.0
	月末	140.15		月末	115.0
6月	初旬	138.17	12月	初旬	114.7
	中旬	133.10		中旬	104.10
	月末	136.12		月末	118.0

以上に挙げたる國際協定案は錫の生産並輸出の統制を目的とするものにして、主要錫生産國たる馬來聯邦、蘭領東印度、ボリビア、ナイジェーリア等各政府の代表者を以て組織する國際委員會に依り實施せらるべく、其の協定骨子下の如し。

- (1) 世界生産量の基數を年14萬5,000噸とし。
- (2) 各國には一定の生産割當を爲すものなるが之は需給狀況に依り時々變更するものなるも、3箇月以内は必らず据置くことゝす。
- (3) 最初の割當は緊急の事態を豫想して設けられたる特別協定に依る場合を除き、少くとも6箇月間變更せざるものなるが其各國別次の如し。

馬來	53,853噸
ボリビア	34,260"
蘭領印度	29,191"
ナイジェーリア	7,750"

- (4) 各國は割當てられたる範圍内にて自國內生産者の生産及輸出を統制すること。
- (5) 本協定案は2年有効とす、但し參加國の或ものが割當の變更を要求し、而して6箇月以内に關係國間に該要求に對し全一致を見出すに至らざる時は、其要求を爲せる國は本協定より脱退する

ことを得べく、然る時は他參加國も本協定の拘束より脱し得るものとせらる。

(6) 本協定は 1931 年 3 月 1 日より實施す。

以上に關し 2 月 20 日 殖民省政務次官は下院に於て英國政府は馬來及ナイジーリア各政府が錫の生産及輸出を統制せんとする國際協定に加入し、必要なる立法手段を講ずるを主義に於て承認するものなり。但し其の承認は蘭領印度及ボリビア各政府代表者と協議して決定せらるべき國際統制案の詳細に關し、殖民大臣が満足なりと認むること並該統制案が關係 4 政府の代表者より成る國際委員に依り施行せられ、之に依りて錫市價の適當なる騰貴より、消費者が損害を受くるが如きことなき様適當なる消費保護の途の講ぜらるゝことの諒解の存在を前提とするものなり。と英國政府の本問題に對する態度を聲明したるが、其れに關し保守黨議員、前殖民省政務次官オールムスビー・ゴールは次の諸點に於て政府に訊す所ありたり。

(1) 錫生産及輸出統制に關し、馬來聯邦及ナイジーリア各政府の發令せんとする所のものは如何なる形式の法令なりや。

(2) 以上の法令は統制案に参加せざる生産者に、ペナルチーを課すものなりや、若し然りとせば如何なるペナルチーを規定せんとするや。

(3) 蘭領東印度及ボリビア各政府は以上と同様の統制と、立法手段を講ずるものなりや。

(4) 關係 4 箇國に與へらるべき割當如何。

之に對し殖民省政務次官は國際制限協定の詳細に於ては、近く會見を見るべき關係國政府の代表者會議に於て定めらるべく、從て該會議を経たる後にあらざれば該質疑諸點に關し具體的答辯は與へ難き旨答へたるが、超へて 2 月 27 日 殖民省に

開催せる各國政府代表及錫生産業者協會代表出席の會議に於て、愈々前記協定骨子を内容とする國際統制案の圓滿成立を見、關係各國代表者は各自の政府に該協定の承認を求むることとなりたる旨發表せられたり。

惟ふに今回の統制案は關係政府の承認を経て實施せらるゝものなるを以て、既往の任意制限の場合に見たるが如き、中途に於て挫折するの危険は少かるべきものと觀測せらるゝも、傳ふるが如く統制案が市價 145 磅に最初の標準を置かんとするものとせば、そは餘程慎重なる考究を要すべく、今後國際委員が最主力を集め討究する所も此標準市價維持の點にあるべしと思考せらる。以上國際協定が 3 月 1 日より實施せらるべしとの報を傳へたる當市場は、1 月初旬以後の軟調より漸次恢復を見せ、最近頗る反撥 123 磅 (3 月 2 日) に上騰したるが、此の機に乗じて利を博せんとする向あるは看取に難からず、又市場以外にも多量の手持品ある模様なれば、市場上向くに從ひ相當賣物殺到すべきものと豫測せらる。

1931 年 1 月以後の相場下の如し。

		現物(標準物噸當)	3 月 物
		磅 志	磅 志
1 月	初	116.12	118.2
	中	113.2	114.10
	末	113.17	115.10
2 月	初	112.5	113.15
	中	114.15	116.5
	末	121.15	123.5
3 月	初	123.0	124.10

### 内外最近刊誌參考記事目次

- Zeitschrift für Metallkunde, April, 1931.
  - Das Dicksche Pressverfahren und die umgekehrt arbeitenden Pressen. O. Busse und Cl. Busse. pp. 105~111
  - Über rontgenographische Untersuchungen der Kaltvergütung des Duralumins. J. Hengstenberg

- und G. Wassermann. pp. 114~117
- Über den Angriff von Metallen durch Insekten.  
O. Bauer and O. Vollenbruck. p. 117
- Verfahren zur Prüfung der Lokalelementtheorie  
der Korrosion; W. Guertler und B. Blumenthal.  
pp. 118~119
- Anlege-Pyrometer; W. Claus und R. Hase. pp.  
120~123
- Das Durchzieh-Glühverfahren und die Grundlagen  
der Wärmeübertragung in Durchziehöfen; O.  
Junker. pp. 124~125
- **Heat Treating and Forging, April, 1931.**
- Iron and steel and World Economic Expansion;  
Robert Hadfield. pp. 347~351
- Air-craft Engine Crankshafts; E. F. Lake. pp. 352~  
356
- Characteristics of Copper Steels, Part III; Franz  
Nehl. pp. 357~359
- Effects of Annealing on Chains; American Society  
of Safety Engineers. pp. 360~364
- Steam Generation at Champion Machine and  
Forging Company; L. F. Ross. pp. 365~366
- Quality Control in the Drop Forging Plant. L. E.  
Ruby. pp. 367~371
- **The Metal Industry (New York) May, 1931.**
- A New Silicon-Zinc-Copper Alloy, Part 3. E.  
Vanders. pp. 196~198
- How to Spin a Copper Tea urn, William Mason.  
pp. 199~200
- Gold Solutions. Oliver, J. Sizelove. pp. 204~205
- Analyzing Chromium Solutions, I. L. Newell and  
W. H. Keefe. pp. 206~207
- **The Metal Industry (London) April 3, 1931.**
- The Influence of Pressure and Temperature on  
the Extrusion of Metals, C. E. Pearson and J.  
A. Smythe. pp. 361~362
- **The Metal Industry (London) April, 10,  
1931.**
- Fine Chemicals as Precious Metal Precipitants. E.  
T. Ellis. pp. 377~378
- Dimensional Stability of Heat-Treated Aluminium  
Alloys, J. D. Grogan and D. Clayton. pp. 379~  
382
- Some Investigations in Copper Deposition, W. Ho-  
thersall. pp. 387~388
- **The Metal Industry (London) April 17,  
1931.**
- The Constitution of the Cadmium-rich Alloys of  
the System Cadmium-Silver, P. J. Durrant. pp.  
403~406
- **The Metal Industry (London) April 24,  
1931.**
- New Developments in Machining Aluminium and  
its Alloys, R. L. Templin. pp. 433~434
- The Control of Electroplating Solutions, No. 1—  
Introduction Samuel Field. pp. 435~436
- **The Metal Industry (London) May 1, 1931.**
- The Scientific Production of Non-Ferrous Ingots.  
Walter, H. Jacobson and William Kelly. pp.  
453~455
- **The Foundry, May 1, 1931.**
- Facilitates Production of Large Steel Castings, E.  
C. Kreutzberg. pp. 44~49
- Prevent Losses with Proper Gates and Risers, Prt  
Dwyer. pp. 52~54
- Iron Reduces Crystal Size in Aluminium Bronze.  
Charles Vickers. pp. 55~57
- Indirect Heat Utilized in Dual Purpose Oven., J.  
B. Nealey. pp. 70~72

特許明細書抜萃

アルミニウム基合金 (特許第 90649 號 5 年特許  
公告第 4971 號、特許 6-3-16、公告 5-12-15、加  
奈陀國、アルミニウム、リミツテツト) 膨脹率低  
小にして硬度高く且つ優秀なる加工性を有しピス  
トン類の製作に適當する Al 基合金を得んとする  
目的を以て 7~15% Si 0.2~3% Mg 0.5~7%  
Ni 及び 0.3~7% Cu を含有し殘餘は總て Al

を含有せる *Al* 基合金

**銅合金線** (特許第 90802 號、5 年特許公告第 5056 號、特許 6-3-26、公告 5-12-19、東京市、古河電氣工業株式會社) 抗張力大にして導電率高き銅合金線を得んとする目的を以て *Cd* 0.1~2.0%、*Zn* 0.1~1.0%、*Si* 0.01~0.5%、*Mg* 又は *B* の 1 種又は 2 種 0.001~0.5%、殘餘 *Cu* 及其不純物を含有せる合金にて作りたる *Cu* 合金線。

**差動聯動裝置筐に青銅製冠齒輪を結合す方法の改良** (特許第 90813 號、5 年特許公告第 4244 號、特許 6-3-26 公告 5-10-27 佛國、ポール、デュラン)

**金ペン地金合金** (特許第 91104 號、6 年特許公告第 249 號、特許 6-4-17、公告 6-1-23 東京府、山本勇三) 彈性に富みインクに對する抗蝕性大にして而も色及光澤の良好なる金ペン地金合金を得んとする目的を以て *Au* 50~60% *Cu* 5~20% *Ag* 20~30%、*Zn* 0.2~3% 及 *Ni* 0.1~2% を含有せる金ペン地金合金

**アルミニウム合金** (特許第 90482 號、5 年特許公告第 4481 號、特許 6-2-28 公告 5-11-12 東京府株式會社東京輕合金製作所) *V* を含有せざる此種の合金に比し組織を改善し結晶粒子を著しく緻密ならしめ且つ機械的加工性を優良ならしめんとする目的を以て *Cu* 2.0~6.0% *Ni* 1.0~4.0%、*Mg* 0.2~2.0%、*Si* 0.2~5.0%、*V* 0.03~3.0% を含み *Zn* 15% 以下若くは之を加へずして殘餘は *Al* 及不純物を含有せる *Al* 合金

**アルミニウム及其合金用鐵** (特許第 90547 號、5 年特許公告第 3662 號、特許 6-3-3、公告 5-9-10、栃木縣、玉田春一、外 1 名) 從來困難とせられし *Al* 及其合金の接合を容易且つ堅牢に行ひ得べき鐵を得んとする目的を以て *Sn* 30~50%、*Ag* 3~7

% 及 *P* 0.2% 以下を含有し殘餘は *Zn* より成る *Al* 及其合金用鐵

**鍍金用鉛合金** (特許第 90573 號、5 年特許公告、第 4548 號、特許 6-3-5 公告 5-11-14、神戸市、町田耘平)

**磁性材料の改良** (特許第 90365 號 5 年特許公告第 1939 號、特許 6-2-19、公告 5-5-16 米國、ウエスタルン、エレクトリック、コムパニー) 低磁化力に於て高き導磁率小なるヒステリシス及高き固有抵抗等の良好なる性質を有する磁性材料を得んとする目的を以て *Ni* 30~85%、*Mo* 1~6%、*Fe* 9~69% を含有する合金より成ることを特徴とし始導磁率高く保磁力低き磁性材料

**耐酸性合金** (特許第 90445 號、5 年特許公告第 4778 號、特許 6-2-24、公告 5-12-1 關東州大連市、上島慶篤) 常溫又は高溫に於て空中酸化する事極めて尠なく且つ高溫高壓の下に強度、伸度等何れも最上鋼以上の性質を有し鍛鍊、鑄造、壓延何れにも適するのみならず鹽酸、硫酸、硝酸、亞硫酸等の何れにも耐ゆる合金を容易に得んとする目的を以て *Cr* 15~25%、*Ni* 60~80% *Cu* 1~4% *Si* 0.3~3%、*Mo* 0.3~4%、殘餘として不純物を含有せる耐酸性合金

**耐酸鋼** (特許第 90446 號、5 年特許公告第 4829 號、特許 6-2-24、公告 5-12-3、關東州大連市、上島慶篤) 常溫又は高溫に於て空中酸化する事極めて尠く且つ強度、伸度等何れも最上鋼以上の性質を有し鍛鍊、鑄造、壓延に適し鹽酸、硫酸、硝酸の何れにも耐ゆる合金を容易に得んとする目的を以て *Cr* 5~15%、*Ni* 20~35% *Cu* 1~4%、*Si* 0.3~3%、*Mo* 0.3~4% 殘餘として *Fe* 及不純物を含有する耐酸鋼

**アルミニウム合金** (特許第 90311 號、4 年特許公告第 269 號、特許 6-2-18、公告 4-1-23、大阪市、伊勢房雄) 耐腐蝕性強く抗張力及硬度比較的大にして比重軽く且つ普通の *Al* と同一程度の被加工性を有する *Al* 合金を得んとする目的を以て *Fe* 0.4% 以下、*Si* 0.8% 以下、*Mg* 1~0.3%、*Al* 97.8% 以上を含有せる *Al* 合金

**護膜製品を製造する押型捺染轉子等を鑄造するに使用する合金** (特許第 90325 號、5 年特許公告第 3449 號、特許 6-2-18、公告 5-8-27 東京府、陸路 錄)

**金屬合成物** (特許第 90349 號、5 年特許公告第 4344 號、特許 6-2-19、公告 5-11-4、東京市、株式會社芝浦製作所) 粒子を成長せしむる事無く硬質強韌均質にして空所少き金屬合成物を得んとする目的を以てメンデレーフの元素周期律表の第 6 類の元素の炭化物より成り相當量なるも 25% を超えざる鐵屬金屬と數%の粒子發育防止劑とを含有する金屬合成物

**金屬合成物製造方法** (特許第 90350 號、5 年特許公告第 4367 號、特許 6-2-19 公告 5-11-4、東京市株式會社芝浦製作所) 密實均質なると共に甚だ硬質なる如き性質の金屬合成物を得んとする目的を以て、*C* と酸化タングステンとの乾性混合物を醋酸の水溶液中に導入し空中にて該混合物を熱し醋酸 *Co* を分解せしめ斯くして得たる固塊を還元氣體中にて焼成し焼成せられたる固塊を壓搾融着する事に依る金屬合成物製造方法

**鉛合金** (特許第 90359 號、5 年特許公告第 4670 號、特許 6-2-19、公告 5-11-24、東京市、古河電氣工業株式會社)

**金合金** (特許第 91006 號、5 年特許公告第 4457 號、特許 6-4-10、公告 5-11-10、東京府、稻見角

治郎)

### 特許出願公告抜萃

**酸化銅高抵抗體製造方法の改良** (6 年特許公告第 1813 號、公告 6-5-18、東京市、沖電氣株式會社)

**鐵附液** (6 年特許公告第 1885 號、公告 6-5-22 東京市、財團法人理化學研究所) 鐵附後に於て鐵附部に金屬腐蝕の媒介物たる酸性化合物を残留せしむることなき鐵附液を得んとする目的を以てフタルアミン酸性又は中性フタル酸アンモニウム、酸性又は中性琥珀酸アンモニウムの 1 種或は數種の主要なる成分とし之に水及グリセリン又はエチレングリコールの 1 種或は數種を加へて製したる鐵附液

**マグネシウム、セリウム合金の精製法** (6 年特許公告第 1938 號、公告 6-5-27、獨國、イー、ゲー、ファルベンインヅストリー、アクチエン、ゲゼルシャフト)

**鐵金** (6 年特許公告第 1951 號、公告 6-5-27、米國、ウエスチングハウス、エレクトリック、エンド、マヌファクチュアリング、コムパニー) 従來の燐銅鐵金よりも展延性著しく大にして且つ銅亞鉛鐵金等よりも熔融點低き鐵金ソルダーを得んとする目的を以て 2.5% 以上 6% 以下の *P* と殘餘%の *Cu* との合金より成る鐵金

**高導磁率合金の改良** (6 年特許公告第 2031 號、公告 6-6-3 仙臺市、金屬材料研究所長) 極めて弱き磁場に於て甚だ高き導磁率を有する合金を得んとする目的を以て *Ni* 70~85%、*Fe* 15~30% *Si* 2% 以下、*Co* 4% 以下、*Mn* 1% 以下を含有する事を特徴として成る高導磁率合金

**眞鍮又は砲金の如き銅合金製品の表面仕上注** (6 年特許公告第 2033 號、公告 6-6-3 川崎市、東京電

氣株式會社) 該表面をして高温度に於て酸化變色する事なく光澤に富めるものとなさんとする目的を以て眞鍮又は砲金の如き銅合金製品の表面を混酸を以て處理し水洗後更に Cr 酸を含む清淨劑を以て處理することを特徴とする Cu 合金製品の表面仕上法

**アルミニウム及アルミニウム輕合金の防蝕法** (6年特許公告第 2034 號、公告 6-6-3、名古屋市、愛知時計電機株式會社) 簡単に且短時間の處理にて Al 又は Al 輕合金の表面に防蝕性皮膜を生ぜしむる目的を以て Al 又は Al 合金を弗化 Cd 水溶液中に浸し表面處理を施す Al 又は Al 輕合金防蝕法

**鉛基減磨合金** (6年特許公告第 2084 號、公告 6-6-5、東京市、株式會社ヤマトメタル商會) 硬度

並びに耐壓力の大なる軸承合金を得んとする目的を以て Sn 8~12%、Sb 10~14%、Cd 0.3~1.5% Cu 0.2~2%、Ni 0.2~1.5%、As 0.1~1%、Pb 66~81%を含有せる軸承合金

**濕式亞鉛製鍊に於ける電解液清淨用亞鉛槽産出 スラツチより金屬カドミウムの簡單なる回收方法** (6年特許公告第 2091 號、公告 6-6-5、東京市、共立鑛業株式會社) 極めて簡單なる操作に依り而も人體に有害なる酸化 Cd の蒸氣を發生せしむる事なくして純度高き金屬 Cd を回收する目的を以て海綿狀 Cd を稀硫酸溶液に依り處理して大部分の Zn を除去したる後壓縮團塊となし熔融苛性アルカリ中に投入し金屬 Cd を收得する方法

(3月中) 主要製鐵所に於ける鐵鋼材生産高調 (單位噸) (商工省鑛山局)

種 別	3 月 分			1 月 以 降 累 計			
	昭和 6 年	昭和 5 年	比較増減	昭和 6 年	昭和 5 年	比較増減	
銑 鐵	内地朝鮮	89,467	111,815	-22,348 19%	260,252	314,086	-53,834 17%
	滿 洲	32,916	26,145	+6,771 25%	93,113	74,356	+18,757 25%
普 通 鋼	143,890	205,803	-61,913 30%	392,519	591,569	-199,050 33%	
販 賣 向 鋼 片	5,123	8,846	-3,723 42%	10,264	20,019	-9,755 48%	
販 賣 向 シ ー ト パ ー	3,405	274	-3,131 114%	17,827	274	+17,553 640%	
普 通 鋼 壓 延 鋼 材	127,053	176,932	-49,879 28%	350,537	504,244	-153,707 30%	
内 譯							
鋼 板 厚 0.7mm 以下	20,788	21,116	-328 1%	59,787	58,294	+1,493 2%	
〃 其 他	28,957	33,100	-4,143 12%	66,902	98,310	-31,408 31%	
棒 鋼	32,027	45,855	-13,828 30%	83,932	124,924	-50,992 37%	
形 鋼	16,691	24,181	-7,490 30%	47,967	73,653	-25,686 34%	
軌 條	7,147	31,111	-23,964 77%	31,674	81,585	-49,911 60%	
線 材	15,626	10,925	+4,701 43%	43,411	27,649	+15,762 57%	
鋼 管	4,781	8,367	-3,586 42%	13,726	23,629	-9,903 41%	
其 他	1,036	2,277	-1,241 54%	3,183	6,200	-3,062 49%	

昭和 6 年 4 月中 (八幡) 製鐵所銑鋼生產高表

銑 鐵			鋼 塊			鋼 材		
當月生産高	前月比較	1 月以降累計	當月生産高	前月比較	1 月以降累計	當月生産高	前年比較	1 月以降累計
52,736	- 1,669	154,555	74,012	- 385	214,835	66,437	+ 581	195,501

昭和 6 年 3 月中外國銑輸入高 (銑鐵共同組合) (單位噸)

輸 出 國	輸 入 港 名							計	1 月以降累計
	橫 濱	神 戶	大 阪	門 司	名 古 屋	其 他	計		
支 那	—	—	—	—	—	—	—	—	—
印 度	3,870	3,075	4,485	461	413	—	12,304	26,753	
英 國	102	—	—	—	—	—	102	685	
獨 逸	102	1,008	—	—	—	—	1,110	1,110	
米 國	—	—	—	—	—	—	—	—	
瑞 典	—	109	—	—	—	—	109	109	
耳 他	—	—	—	—	—	—	—	—	
計	4,074	4,192	4,485	461	413	—	13,625	28,657	
印銑1月以降累計	8,107	8,479	8,593	590	984	—	—	26,753	

昭和 6 年 4 月中外國銑輸入高 (銑鐵共同組合) (單位噸)

輸 出 國	輸 入 港 名							計	1 月以降累計
	橫 濱	神 戶	大 阪	門 司	名 古 屋	其 他	計		
支 那	—	—	—	—	—	—	—	—	
印 度	3,768	512	3,803	—	932	—	9,015	35,768	
英 國	205	102	—	—	—	—	307	992	
獨 逸	—	—	—	—	—	—	—	1,110	
米 國	—	—	—	—	—	—	103	108	
瑞 典	109	—	—	103	—	—	109	218	
耳 他	—	—	—	—	—	—	—	—	
計	4,082	614	3,803	108	932	—	9,539	38,196	
印銑1月以降累計	11,875	8,991	12,396	590	1,916	—	—	35,768	

備考 大藏省主稅局調査の數字は單位擔なるを以て 1 擔 0,06048 噸の割合にて換算したり

銑 鐵 市 場 在 庫 月 報 表 昭和 6 年 3 月 31 日現在 三菱商事株式會社金屬部

市 場	持 主 別			合 計	前 月 比 較
	生 産 筋	問 屋 筋	消 費 筋		
東 橫 名 大 神 門 長 函 室 釜 兼 大 其 合 前 年 比 同 月	9,052	—	—	—	—
	13,339	4,580	9,837	36,808	- 4,697
	2,538	2,190	3,050	7,778	+ 181
	19,184	21,080	44,380	84,644	- 20,153
京 濱 屋 阪 戶 司 崎 館 蘭 石 浦 連 他 計 較 月	2,966	907	2,883	6,756	- 3,021
	—	—	—	—	—
	62,665	—	—	62,665	- 888
	26,257	—	—	26,257	- 4,459
二	71,777	—	—	71,777	+ 8,163
	193,299	484	1,440	195,223	+ 23,679
	974	—	—	974	- 94
	402,051	29,241	61,590	499,882	- 1,289
月 比 同	+ 3,900	+ 343	- 5,532	- 1,289	—
前 年 比 同 月	193,990	29,334	88,953	312,277	+ 180,605



銑鐵市場在庫品種別

品 種	京 濱	名 古 屋	阪 神	九 州	滿 鮮	北 海 道	其 他	合 計	前 月 比 較
兼 二 浦	5,417	1,270	23,736	931	71,985	—	231	106,570	- 7,623
釜 石	2,671	530	5,347	216	—	—	23,262	35,026	- 1,858
輪 西	5,713	1,383	5,465	212	—	62,665	190	75,623	- 210
鞍 山	2,200	2,130	35,500	4,133	170,230	—	90	214,283	+ 10,104
本 湖	2,773	1,575	2,786	574	23,983	—	458	32,149	- 1,523
淺 野	13,919	20	340	500	—	—	—	14,779	- 369
大 暮	—	—	—	45	—	—	—	45	- 35
Tata	870	50	2,900	—	—	—	—	2,820	- 983
Burn	3,060	150	2,700	49	472	—	—	6,431	+ 700
Bengal	105	120	1,150	2	—	—	—	1,377	+ 474
Cleveland	35	50	130	—	—	—	—	215	- 10
Hematite	35	—	340	—	—	—	—	375	- 105
Swedish	—	—	—	—	—	—	—	—	—
Mysore	—	—	—	94	—	—	—	94	- 31
米 國 銑	10	—	—	—	—	—	—	10	0
大 陸 銑	—	—	—	—	—	—	—	—	—
雜 銑	—	500	1,250	—	330	—	—	2,080	+ 185
合 計	36,808	7,770	84,644	6,756	237,000	62,665	27,231	492,882	- 1,289
前 月 比 較	- 4,697	+ 181	20,153	- 3,021	+ 31,842	- 888	- 4,553	- 1,289	—

銑鐵市場在庫月報表 昭和6年4月30日現在 三菱商事株式會社 金屬部

市 場	持 主 別			合 計	前 月 比 較
	生 產 筋	間 屋 筋	消 費 筋		
東 京 濱 京 濱 屋 阪 戶 司 崎 館 蘭 石 浦 連 他 計 較 前 月 年 比 同	11,538	5,350	6,279	36,657	- 151
	13,490	2,370	3,540	9,591	+ 1,815
	3,811	19,462	31,742	72,545	- 12,099
	21,341	1,042	4,217	7,540	+ 784
	2,233	—	—	—	—
	—	—	—	64,095	+ 1,430
	64,095	—	—	23,957	- 2,300
	23,957	—	—	75,535	+ 3,758
	75,535	2,099	1,480	207,949	+ 12,726
	204,370	—	—	947	- 27
947	30,321	47,128	498,816	+ 5,934	
421,367	+ 1,080	- 14,462	+ 5,934	—	
+ 19,316	30,949	81,752	318,658	+ 180,158	
205,957					

銑鐵市場在庫品種別

品 種	京 濱	名 古 屋	阪 神	九 州	滿 鮮	北 海 道	其 他	合 計	前 月 比 較
兼 二 浦	5,307	3,133	26,394	754	75,937	—	91	111,616	+ 5,046
釜 石	2,910	455	4,130	95	—	—	23,962	31,552	- 3,474
輪 西	6,752	1,423	7,265	38	—	64,095	150	79,723	+ 4,095
鞍 山	1,565	1,950	25,336	4,035	182,809	—	60	215,755	+ 1,472
本 湖	3,123	1,820	2,527	530	23,786	—	641	32,427	+ 278
淺 野	13,905	50	220	600	—	—	—	14,775	- 4
大 暮	—	—	—	20	—	—	—	20	- 25
Tata	770	5	2,690	114	—	—	—	3,579	- 241
Furn	2,280	300	1,420	1,170	396	—	—	5,566	- 865
Bengal	—	—	860	—	—	—	—	860	- 517
Cleveland	20	50	113	—	—	—	—	183	- 32
Hematite	20	—	340	—	—	—	—	360	- 15
Swedish	—	—	—	—	—	—	—	—	—
Mysore	—	—	—	84	—	—	—	84	10
米 國 銑	5	—	—	—	—	—	—	5	5
大 陸 銑	—	—	—	—	—	—	—	—	—
雜 銑	—	405	1,250	100	556	—	—	2,311	+ 231
合 計	36,657	9,591	72,545	7,540	233,484	64,095	24,904	498,816	+ 5,934
前 月 比 較	+ 151	+ 1,813	- 12,099	+ 784	+ 16,484	+ 1,430	+ 2,327	+ 5,934	—